

FLSタイムライン															
	入院当日	術前	手術	手術後当日	術後1日目～7日目	術後8日目～21日目	回復期病棟転棟	回復期転棟1ヵ月	退院前	外来再診時（1～3ヵ月）	6ヵ月外来	1年外来以降	プロトコル外の活動	対象患者特定のために	
FLSにおける職種	医師	・診断 ・骨粗鬆症治療の必要性の説明 ・採血（骨代謝マーカー含む）		・手術	・術後説明の際に、投薬開始の説明、了承	・骨密度検査（術後検査に追加） ・治療薬の決定、開始 ・指導料の算定（大腿骨近位部骨折の場合）	・治療薬開始の確認 ・副作用確認	・処方継続	・処方継続	・退院処方 ・近医への継続治療のお願い	・治療継続の確認	・骨密度検査 ・採血（必要に応じて） ・治療継続の確認 ・近医受診の提案	・骨密度検査 ・採血（必要に応じて） ・治療継続の確認 ・薬剤の変更考慮 ・近医への紹介	・院内各部署での勉強会開催 ・院外への啓発活動 ・病診連携のしくみ作り ・整形外科以外の科の先生方、メディカルスタッフへのFLS活動周知	
	病棟看護師	・受け持ち看護師が対象患者のスクリーニング、電子カルテ（データベース）入力 ・チーム医療オーダー					・治療薬開始の確認 ・副作用確認 ・回診記録の記載	・治療薬継続の確認	・退院先の確認	・退院処方の確認、説明 ・退院後の外来、フォロー先の確認 ・資材の配布 ・再骨折予防手帳の配布、記入			・病棟内での勉強会開催 ・入院患者、家族への啓発活動（パンフレットの掲示の案内や説明）	・受け持ち患者が骨粗鬆症治療未介入の場合、FLSチームへの介入依頼を主治医に促す	
	外来看護師	・骨折既往の確認 ・骨粗鬆症治療歴の確認								・治療継続の確認 ・次回骨密度検査の確認 ・未来院のフォロー	・治療継続の確認 ・次回骨密度検査の確認 ・未来院のフォロー ・近医受診への促し	・治療継続の確認 ・次回骨密度検査の確認 ・未来院のフォロー ・近医受診の指示			
	薬剤師	・入院時の持参薬確認（骨粗鬆症治療薬の有無）				・処方薬の評価	・処方薬の評価 ・副作用確認 ・回診記録の記載	・処方薬継続の確認	・処方薬継続の確認	・ご本人、ご家族への服薬指導（2棟に限る）	・必要に応じて服薬指導			・簡単な骨粗鬆症治療薬の一覧表を作成し、患者に配布（医師からある程度絞り込み、自ら選択することで、治療意欲を促す）	・他科で選定と治療薬を処方されている患者のピックアップ、FLSチームへの介入依頼を主治医に促す
	リハビリ	・通常のリハビリ介入				・通常のリハビリ介入 ・回診記録の記載					・定期フォロー、身体機能評価			・人間ドック利用者への指導（骨粗鬆症、運動療法、生活習慣病など） ・介護予防教室での評価、講話（骨粗鬆症、サルコペニア、フレイルなど） ・退院後通所・訪問リハを利用開始した利用者に対する追跡評価、医師への情報提供 ・転倒リスク評価、サルコペニア評価等	・他科処方のリハビリ患者に関して、骨粗鬆症ハイリスク、転倒ハイリスク患者のFLSチームへの介入依頼を主治医に促す
	医療ソーシャルワーカー												・紹介先の検討 ・依頼		・DEXAの積極的な共同利用、宣伝
	診療放射線技師	<必要に応じて> ・メジャー入り心有無の確認 ・CTのメディア出力確認				・DEXAの撮影							・Xp撮影時に骨密度検査の確認		・骨粗鬆症を目的としない検査（腹部CT、腹部Xpなど）で骨粗鬆症の可能性があると判断した場合、FLSチームへの介入依頼を主治医に促す
	管理栄養士	・入院時栄養指導（骨を強くする食事療法について）					・回診記録の記載	・リハビリと栄養評価		・退院時栄養指導（家庭での食事について）	・栄養指導（食事の確認等）				・骨粗鬆症未治療の低栄養患者への介入時、FLSチームへの介入依頼を主治医に促す
	医事課	・コストに関する問い合わせへの対応				・回復期方向の確認	・点数計算 ・回診記録記載の周知	・薬価確認							
	ケアマネジャー 訪問看護									・服薬コンプライアンスの確認 ・退院後外来の確認	・服薬コンプライアンスの確認 ・通院の確認				・骨粗鬆症未治療患者のFLSチームへの依頼
FLSクリニカルスタンダード (5I) イメージ	ステージ1 identification 対象患者の特定	ステージ2 Investigation 二次骨折リスクの評価	ステージ3 Initiation 投薬を含む治療の開始	ステージ4 Integration 患者のフォローアップ	ステージ5 Information 患者と医療従事者への教育と情報提供										